

2011年度 早稲田大学大学院法務研究科

法学既修者試験 論述試験

刑 法

(問 題)

問題1 (60点)

甲は、仕事上の恨みから、路上において、歩行中のAに自動車を衝突させ転倒させたうえで、包丁でその身体を突き刺して殺害しようという意図の下に、真冬の某日午後10時頃、人通りの少ない道路上を歩行中のAの右斜め後方から、自分の運転する自動車前部を時速約20キロメートルでAに衝突させ、同人を同車のボンネット上に跳ね上げた。Aは、後頭部を同車フロントガラス付近に打ち付け、路上に落下し、その衝撃によって加療約50日間を要する傷害を負い、歩行困難になった。甲は、自動車を降りてAに近づいたところ、Aに「助けてくれ」と懇願されたので後悔の念にかられ、包丁で突き刺すことをやめ、自動車でその場を去った。

甲が逃走した5分後、たまたま乙が自動車で同所を通りかかり、Aが倒れているのを発見し、病院に連れて行こうと自車の後部座席にAを乗せ、同車を発進させた。しかし、15分ほど病院を探したが見つからず、乙は、面倒になって、人気のない道路脇の草むらにAを放置して、自動車でその場を去った。翌朝、Aはその場で凍死した。

甲・乙の罪責を論じなさい(特別法違反の点を除く)。

問題2 (30点)

文書偽造罪における有形偽造と無形偽造について、双方の典型的な事例と、両者の限界が問題となる事例を挙げつつ、論じなさい。

〔以下余白〕